

編集後記

二〇世紀最後の年・平成十二年（西暦二〇〇〇年）一月から十二月までの間の活動報告となる、二一世紀最初の『戦史研究年報』第四号をここに届けます。

さて、本号は掲載する「論文」の数を従来の三〜四本から六本へと増加させました。これは、防衛研究所における戦史研究の成果をより数多く知っていただくための試みで、昨年七月の戦史研究発表会で発表会場を二会場とし、報告者を倍増させたことに連動しております。六本中の五本がこの発表会での報告原稿をもとにしたものになっています。また、扱うテーマも日清戦争期、第一次世界大戦から両大戦間期、太平洋戦争期と幅広い時期にわたり、さらに今回は「軍事革命」についてナポレオン戦争期を考察している「新しい？」研究分野も含まれております。

「研究会記録」では、まず客員所員研究会記録として、アメリカのオハイオ州立大学ミレット教授の「米国流戦争方法の起源」を紹介しております。これは昨年九月五日から八日の間に三回行われた研究会の第一日目の報告ペーパーです。この種の研究会はこれ以外にも、韓国（二月）、アメリカ（二月）、そしてイギリス（十一月）から客員所員を招聘し行われました。詳しくは、「活動報告」のページをご覧ください。いま一本の研究会の記録は、ドイツのフライブルク大学マーチン教授による「日中戦争期の中国におけるドイツ軍事顧問」で、これはドイツにおける日独関係史の第一人者の報告で、日本ではなかなか聞く機会のないものと思わ

れます。

「史料紹介」は、前号で原史料の全文掲載をはじめて一本行ったのに続き、本号では二本とも全文掲載の形としました。とくに山本元帥の書簡では、毛筆書簡そのものの縮小複写も添えて、デジタルにも訴えるものとなりました。

その他、国際会議の参加報告、研究会等の実施、戦史資料の閲覧、レファレンスの状況などにつきましては、例年通りの報告となっております。なお、国際会議報告は、国際軍事史学会がスウェーデンのストックホルムとノルウェーのオスロでの、いま一つはカナダのオタワで行われた軍事史研究大会の報告です。両大会では、それぞれ一人づつ戦史部所員が研究報告を実施いたしました。

以上が本号の概要ですが、この編集・発行には前号と同じく、多くの方々のご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。また、今後ともこの『年報』をますます充実させていきたいと考えております。皆様からのご意見、ご感想、ご批判の程よろしくお願い申し上げます。

（相澤 淳）

戦史研究年報 第四号

平成十三年三月三十一日発行

編集 防衛研究所戦史部

発行 防衛研究所

〒153-8648 東京都目黒区中目黒二二二

電話 〇三二五七二二一七〇〇五（代表）

印刷 有限会社 黎明社